

和解をもたらす「新しい人」になる道のガイド 聖パウロ

シスター小野島照子

2009 年広島教区年間テーマは「平和の使徒となろう」～和解をもたらす「新しい人」に～と呼びかけています。教区の信徒皆でこのテーマを深める年として始まった 2009 年度ですが、パウロ年（使徒パウロ生誕 2000 年）も残すところあと 2 か月たらずになりました。このテーマが摂理的にパウロ年を祝う日々の中で生きるよう招いている意味を探ってみたいと思います。使徒パウロは、いつの時代も、人々を新しい生き方に導く根拠は、「和解をもたらす新しい人」になるよう、聖パウロが無償で神から受けた招きにあると宣言しています。

聖パウロはコリントの人々への手紙で次のように語ります。「すべては神に属するものです。神は、キリストによって私達をご自分と和解させてくださった方であり、和解の介添えの役をわたしたちに与えられた方です。神はキリストにおいて世をご自分と和解させ、人々の犯した過ちを問題にすることなく、和解させる任務をわたしたちにゆだねられたのです。・・・キリストに代わってお願いします。神と和解してください。神は道のふみはずしとは縁のない方を、わたしたちのために道をふみはずさせたのです。そのおかげで、わたしたちはその方と一体のものになることによって、神の正義を身に帯びる者となっています。（II コリント 5・18-21）

聖パウロの回心は、神が過去をとがめることなく無償で与えた恵みだと言う事がはっきりしています。神が無償で与える和解の恵みをパウロは突然受けたのです。つまり「信念」を持って突き進んでいたパウロの生き方をひっくり返すほどの見知らぬお方との出会いがあったのです。今まで「正しい」として生きていたものが覆される時、お先真っ暗になります。これからどう生きて良いのか・・・。パウロは「見知らぬ方」から、キリストを迫害していると知らされます。この出会いでこれまでのパウロの価値観がひ

っくり返されたのです。突然、条件なしに受ける和解の恵みでした。罪を悔い新しい生き方を決心し神に約束することを条件に受けたものではないのです。父なる神から遣わされたキリストは、ご自分の受難と死をもってパウロ同様にすべての人々をご自分と和解させたいのです。パウロが受けた恵みは、生活の最中でこの無償の恵みである和解へわたしたちも招かれていることを保証しています。そして和解の恵みを受けたわたしたちは、この和解をもたらす新しい人になるように呼ばれているのです。聖パウロは、神と和解する恵みを受けて、「人々の犯した過ちを問題にすることなく、和解させる任務をわたしたちにゆだねられた」（II コリント 5・19）と宣言します。

和解はしばしば人間的な条件を整えて取引のように仲直りすることだと誤解しやすいですが、神との和解を無償で受けたキリスト者に託された和解の使命は、神との和解である無償の恵みを受けるように人々を招くことです。神はご自分の大切な方を、わたしたちの救いのために世に送り、そのお方・キリストは、わたしたちを神と和解させるためにご自分の命さえも惜しまないほどの愛を日々注いでくださいます。この神の無償の愛に触れて人は変えられ、パウロのように命がけで神のいのちを生きる人になるように招かれます。この招きの恵みが、「神と和解してください」と人々に述べ伝える使命を生かさせ、「和解をもたらす『新しい人』」になるように成長させてくださるのです。聖パウロの信仰告白は、神の和解の恵みのために奉仕する者となるように私たちを日々招きます。聖パウロがキリストに夢中になり捕らえようと生きたように、私たちも日々キリストに見惚れて生きる恵みを願いましょう。そうすれば無条件にわたしたちの上に注ぎ続ける神の愛を、日々キリストの内に見て感嘆し、神がわたしたちを新しい人にしてくださいます。

特集

日曜学校を考える

⑤

日曜学校について皆様とともに考える特集の最終回。日曜学校の課題と現状について、日曜学校リーダーと教会の運営に関わる皆さんとの話し合いの続きをお伝えします。

司会 現在の運営委員会は将来のことについて話し合っていますか？

幹事長 将来のことよりも、日々の行事や大きな組織運営の話し合う議題も多く、今まで共同体の将来について話し合う機会はありませんでした。

後藤神父 この機会に私たちの将来を担う子どもたちについて考える集まりを持ちましょう。

サポート体制を事前に考える必要があります。

幹事長 大きな行事に子どもたちが参加できる場を作り、一緒に活動したら交流がもてるのではないのでしょうか。

小学校低学年リーダー 得意分野をもったサポーターがいないと様々な行事に対応するのは難しいです。

後藤神父 リーダーが何でもかんでも子どもたちに指導するのではなく、コーディネーターになってください。いろんな分野のサポーターと関わり合い、つながっていくことが大切です。

運営委員長 前回の初聖体は日曜学校だけではなく、教会主催のパーティーにしたことで、子どもたちとその後も少しずつ触れ合うことができています。子どもたちにはさまざまな大人と触れ合う機会が必要だと思います。

小学校低学年リーダー かかわってくださる方がほとんど同じ方なので、サポータ

ーを呼びかけるのにいつも決まった人に声をかけることになるため、いつも同じメンバーが忙しくなってしまいます。

幹事長 ミサ後に必要な人材募集の呼びかけをしましょう。

その度に必要とされる得意分野も違うので、登録制にしたらどうでしょうか？

司会 2月号の記事では、若い保護者が馴染みにくいという課題があるようですが。

小学校低学年リーダー 「若い保護者」というのは年齢のことだけではなく、受洗者、転入者もあります。転入してこられたからといってすぐに「日曜学校ありますか？」という感じにはなりにくいし、なった場合にも、最初は遠慮していて周りとの馴染めないで、受け入れる側にウェルカムの空気があったほうがいいかもしれません。

幹事長 例えば半年に1回くらい転入者を紹介する時間を設けてはいかがでしょうか。

後藤神父 岡山教会では「転入者の集い」や「受洗の集い」があり、交流の機会を作っています。共同体に入るきっかけを作ることは大切です。疎外感を持たせないためにも。

小学校低学年リーダー 日曜学校に新しく入ってきた子どもたちや、もしくは侍者デビューした子どもたちもミサの後にでも紹介することができませんか？

後藤神父 個々にも教会共同体としても、意識するためにもしたほうがいいです。彼らにはサポートが必要ですから、その都度ミサ後に紹介していきましょう。

司会 日曜学校と連携している部というのがありますか？

小学校低学年リーダー 信徒会長さんのところへ行けばとりあえず何とかかなるのではないかと…

運営委員長 いつもというわけにはいかないので、協力してもらえる可能性のあるところをお願いしていただかないと。

後藤神父 ミサのことを勉強して行く上では、典礼部に1時間くらい子供向けに話して香部屋で過ごさせるなりのアイデアを出して依頼してみる、あるいは、教会のために労働奉仕をしたいということで、施設管理部と一緒にできることはありませんかと声をかけてみるとかして、日曜学校だけで何かをやるという発想は捨てた方がいいです。既存の部を活用することで互いに活性化します。連携のきっかけができるはずです。

司会 日曜学校のことを共同体として考えていかなくてはと気になっていたのが、今回特集を組むことで考えるきっかけとなると思います。記事として意見を発信することで日曜学校に関わっていない人からも、広く意見を吸い上げていきたいです。

小学校低学年リーダー 若い人をリーダーに、と願っても就職や転職などで広島を離れることもありますから、ほかの立場の方もリーダーとなっていただければ良いのだけど。

保護者 保護者のために噛み砕いた内容で養成講座があれば、家庭での信仰教育に助かります。

小学校高学年リーダー リーダー自身は授業をするのだから事前に準備して、知識として理解していないと子どもたちに伝えることはできないので、ある程度勉強が必要です。

司会 今回だけに終わらず、これからもこのような話す機会を持ちましょう。

日曜学校特集は今回で一旦終了ですが、日曜学校についての皆様のご意見や家庭での信仰生活について、ご意見やご提案があればお寄せください。

シリーズ 共同体を支えて

教会はどのように運営されているのでしょうか？

司祭が居て、職員が居て、役員の信徒が居て…、決まった役職の方は勿論、それぞれの役をこなして下さっています。けれど、それだけで回っている訳ではありません。役職者以外にボランティアとして働いて居られる多くの方々が居られます。私達の教会共同体を支えてくださっている方々の姿を紹介していきます。

● 香部屋係『ミサの裏方』



ミサ準備中の香部屋

毎週の日曜日、主日のミサが捧げられます。侍者をする子供達は、早めに来て祭壇の準備をします。

香部屋係さんは、もっと早く来て聖具、聖水、ぶどう酒、祭服などを整えます。

同時にマイクの音、照明、モニターカメラのチェック、ミサの始まる寸前には、塔の鐘を鳴らし、侍者を先頭に入堂する



時間を確認して塔の鐘のスイッチを入れます。

司祭、聖体奉仕者、朗読者の列を見送ります。

ミサの後には侍者たちと共に、片付け作業と整理を行っています。

受洗おめでとうございます

4 月 11 日に 9 人の方々が私たち家族に加わり
ました。

よろしくお願いいたします。

カトリック入門講座

曜日	時間	場所	指導者	開始
水	11:00～12:00	202 号室	シスター荒谷	4 月
	19:00～20:00	201 号室	アルベルト神父	5/13
木	11:00～12:00	201 号室	アルベルト神父	5/14
	15:00～16:30	多目的ホール	後藤神父	5 /7
日	16:30～18:00	202 号室	後藤神父	5/10



編集後記



「信仰の先輩である私たちは、新しくメンバーとなった人と共に歩み、信仰を育んでいかなければならない。教会は、共同体として共に支えあっていく場だから」とある司祭から伺ったことがあります。さまざまな人が集まることで共同体はできていますから、自分と合う人ばかりとは限りません。すると、批判したり排除したり優劣をつけたりしようとする誘惑が起きてきます。だから、その誘惑を乗り越えて、互いに受け入れあっていくことが、「共に歩き、信仰を育む」ことになるんでしょうね。(お)